

棚田に吹く風

2019
夏
Summer
季刊

2 特別寄稿

里山アセットマネジメント@トロノキハウス

～都市と里山の新しい関係性の構築に向けて

5 フォトエッセイ

中国の棚田に見る 大地の四季

6 棚田・里山からのたより

新しい価値観のもと、事業の複合化を目指す

～棚田保全の新たな取り組み～

山口県長門市油谷地区

8 棚ガール

追悼

周藏さん、ありがとうございました

9 棚田博士は今日も行く

阪神のベッドタウンに隣接する芋谷の棚田
和歌山県橋本市柱本

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート

15 Project Report



特別寄稿

里山アセットマネジメント @トロノキハウス



都市と里山の新しい関係性の構築に向けて

トロノキハウスオーナー
里山アセットマネージャー

阿久澤 剛樹

「古民家」は今や地域活性の必須のアイテ
ムとなりつつある。今号は、当会の理事で
あり現役のホテル経営の専門家でもある阿
久澤氏が立ち上げた、都市と棚田を古民家
でつなげるプロジェクトを紹介します。

新潟県十日町市松代地区は日本有数の豪雪地帯で、棚田の集積地です。ここに蒲生集落という人口100人ほどの静かな集落があります。越後三山からの日の出が美しい蒲生の棚田と、山桜で有名な儀明の棚田は徒歩圏です。私はこの蒲生集落で、空き家となっていた古民家を購入し改装、トロノキハウス*と名付けました。そして昨年5月から、平日は東京で仕事をし週末はトロノキに暮らす二地域居住を始めました。

「棚田のある暮らし」

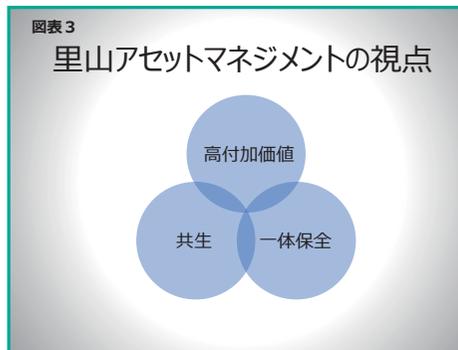
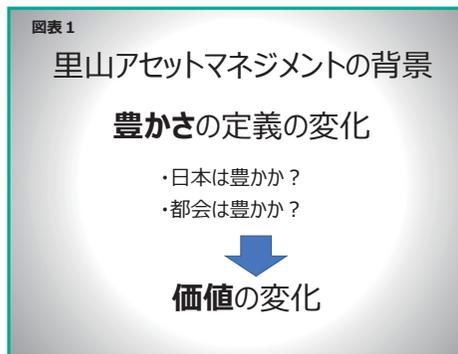
トロノキハウスのコンセプトは「棚田のある暮らし」です。それは、都市の暮らしでパンパンになった頭と心を癒してくれるゆつくり(slow)、小さく(small)、素朴(simple)な暮らしです。ていねいな、質の高い暮らしであり、農家や大工が知恵と技術を注ぎ込み長い歳月をかけて作り上げた棚田や古民家という「芸術」と共に暮らす、都市では経験できない贅沢(Satoyama Luxury)な暮らしといえるかもしれません。

私は、「棚田のある暮らし」に象徴される「価値」にはある種の普遍性があり、近年社会問題となっている都市の働き方改革に対する一つの解答となり得ると考えています。と同時に、この価値は現状のまま放置すれば、棚田や古民家と共にそう遠くない将来に消滅してしまいます。

儀明の棚田。左端が筆者



トロノキハウス前の棚田



戦後最長の景気拡大の一方で精神的に疲弊する都市。一方、豊かな自然環境に恵まれながらも人口減少により消滅の危機に瀕している里山。同じ国でありながら、ヒト・モノ・カネにおいて対照的な発展と衰退の道をたどっている都市と里山がそれぞれ存亡の危機に瀕して、今お互いを必要としているのではないのでしょうか。近年、都市における豊かさの定義と価値観が少しずつ変わってきていると感じています。(図表1)

里山アセットマネジメント

この問題へのアプローチとして、私は里山アセットマネジメント（里山AM）という考えを提唱しました。これは、従来、都市資産・金融資産に用いられてきたア

「都市の疲弊」と「里山の危機」

※「トロノキ」とはこの場所の字です トロノキハウス <http://toronoki.com/>

紅葉のブナ林



蒲生の棚田



図表4
里山アセットマネジメントの理念
二つの持続可能性の追求
持続可能な環境
持続可能な事業

図表5
里山アセットマネジメント 事例
トロノキハウス

Before

After

図表6
トロノキハウス コンセプト

環境
(Ecology)
低環境負荷
低消費

交流
(Exchange)
都市と里山
日本と外国

体験
(Experience)
モノよりコト
観光から関係

トロノキハウス
棚田のある暮らし

セットマネジメントという手法を、里山の資産（アセット）に適用し、正しく管理（マネジメント）し付加価値をつけることで、里山の価値を一体的に保全・活用するという考え方です。

大型不動産、株式、現金などを対象とする都市AMに対し、里山AMでは棚田、古民家、雪、ブナ林、等々と対象資産は変わりますが、アプローチは共通で、不動産、金融、マーケティング、法律、税務、アート、建築、土木、観光など、広範なビジネス領域を通じて資産の高付加価値化を図ります（図表2）。実践にあたっては、高付加価値、共生、一体保全という視点（図表3）で、環境と事業の持続可能性を両立させることが必須であると考えます。（図表4）

機能性とアートを融合させた再生古民家トロノキハウス（図表5）は、環境、交流、体験という三つのコンセプトをベースに「棚田のある暮らし」という高付加価値な暮らしを提案する里山アセットマネジメントの実践の場であると考えています（図表6）。

トロノキハウスの挑戦はまだ始まったばかりです。皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

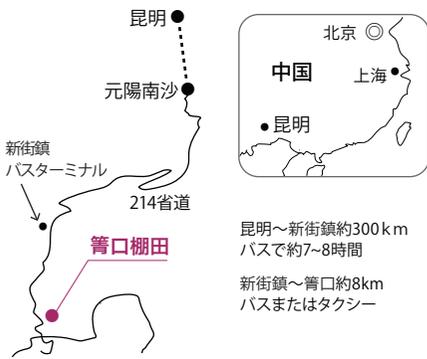


雲南省元陽県・箐口棚田と集落

中国の棚田に見る 大地の四季

写真・文
福田伸吉

7月の雲南省元陽は美しい緑の絨毯を敷いたような棚田が広がり、谷底から湧き上がる霧に包まれた幻想的な世界が展開されます。断崖絶壁の上に造られた展望台からの眺めは、幅3km長さ5km高低差300mの山麓に見渡す限り小さな棚田が続いています。写真は望遠レンズで箐口^{チンロウ}の集落をUPに撮影したものです。この集落は歴史的に古い家並みが保存され、観光コースの一部にもなっています。



昆明～新街鎮約300km
バスで約7～8時間
新街鎮～箐口約8km
バスまたはタクシー



福田 伸吉 ふくだ しんきち

1944年群馬県生まれ。1968年から世界各地の蒸気機関車を撮り続ける。蒸機の終焉を期に2012年から棚田撮影に傾注。現在も日本・中国の棚田撮影を継続中。これまでに「蒸機」「棚田」を題材に11回にわたり個展を開催。日本中国写真芸術協会会員。東京都在住。

●最近の個展

- 2012年 「花蒼紅雪・中国SLの旅」オリンパスギャラリー東京
- 2016年 「美・日本の棚田」コニカミノルタプラザ
- 2017年 「稲掛・日本の棚田」オリンパスギャラリー東京
- 2019年 「雲上の棚田を往く」ポートレートギャラリー

●写真集

- 1987年 「蒸気機関車」大塚カラー印刷
- 1996年 「煙遊紀行・悠久なる大地の旅」Bee Books
- 1998年 「煙遊紀行II・世紀末世界を駆けた蒸機」Bee Books



藁屋根の古い民家

棚田・里山
からの
たより



新しい価値観のもと、事業の複合化を目指す 棚田保全の新たな取り組み

山口県長門市油谷地区

油谷向津具半島の棚田とは

山口県長門市油谷地区は本州の最西北端の地にあり、古来、平地、傾斜地を問わず稲作が奨励され、向津具半島の宇津賀・向津具地区に940ヘクタールの農地があり、そのほとんどが棚田と呼ばれるところで、高いところでは標高200メートルの地から海に向かって100段もの水田が階段状に築造されているところもあります。

しかしながら、高齢化による労働力不足のため、荒廃が進み今では半分ほどの棚田しか残っており、水稲の作付においては、240ヘクタール程度の作付となっています。

向津具半島の棚田は作られた

諸説ありますが、向津具半島では中世を通じて荘園が開かれ、江戸時代に引き継がれました。長州藩は財政難の打開策として、山野の開墾を推し進めていきました。記録によれ

ば、江戸時代初期から後期までで耕地面積は62%増加したことが分かります。また、「棚田」という字名を江戸時代の記録『防長風土注進案』に見ることが出来ます。

吉田松陰は『廻浦紀略』に「向津具の岬を廻る、巖石壁立す。川尻・立石・津黄を陸に沿ひて舟を通ずるに、連互皆山にして、山巔迄壘闢して畠となす」と棚田の景観を記しています。

棚田での取り組み

棚田保全活動の取り組みとしては、平成11年度から棚田ボランティア、平成14年度からは棚田オーナー制度の導入を実施しましたが継続できず、その活動は途中で途絶えている状況ですが、中山間地域等直接支払制度の利用や山口型放牧による保全活動は現在も行われています。



1: 東後畑の棚田夕景 / 2: 人文字で150。サミットまであと150日! / 3: 牛の放牧で棚田を保全 / 4: ニオイヤメを植える

3つの再生プラン

そこで、さらなる取り組みとして、棚田サミットを機に新しい価値観の元、以下の棚田再生プランを再度進めようと挑戦しております。

その取り組みについては、消費者の視点をどう集め、どの生産を生み出し、継続した事業とするかを目的として3つの再生プランに取り組みたいと思っています。

①農地としての棚田への取り組み

・鳥獣対策として、野菜の耕作地を中心に、その周りを鳥獣が避ける香りがする植物を繁殖させ、その中で栽培をする。
・二次加工後に特異性や希少性を発揮できるもの。

この二つの条件を満たした作物として、西洋種のハーブの入植を計画しました。

ハーブの品種の選定は、日照時間、降雨量、湿度、土壌の軽金属イオン含有量、土質、保水性に応じた入植を試み無農薬栽培と必要な労働力が少ない農業を生み出せればと思っています。



上：ハーブの入植 / 左：ハーブ（フレンドタイム）

②棚田景観としての花段への取り組み

日本海を望む景色を主に置き、海と山の間にある傾斜がある棚田の条件を生かした観光という視点を取り入れる。なぜなら、近隣には年間100万人の観光客が訪れる元乃隅神社があり、その経由地でもある棚田の花段をいかに観光周遊と交流人口の増加を目指します。

歴史のある棚田を新しい観光地として、再生に挑むことで長く多くの人に再生に取り組みに愛していただける景色として、景観保護の労働力への投資を促したいと思っています。

③商業地としての棚田の花段の取り組み

生産性、継続性、事業性を前提とし移住を促し、生産人口の誕生から事業の発生と誘致を目標としています。一次産業と二次産業の生産性では、生活に必要な資産の形成が難しく、これを解決する為に収益性がある事業の生成が必要です。売り手、買い手、作り手の連携は、新しい資産と新しい交流人口の創生を伴う、棚田の再生提案です。

(NPO法人ゆや棚田景観保存会)

■棚田へのアクセス

【公共交通】 JR山陰本線人丸駅または長門古市駅よりタクシー利用で約15分。(バスは運行本数が少ない)

【自動車】 国道191号線で人丸駅をめざす。ここから県道66号線に入り、宇津賀郵便局を目指す。付近一帯の斜面に棚田が見えてくる

■お問い合わせ

〒759-4711 山口県長門市油谷後畑1766番地

<http://member.hot-cha.tv/~yuya-tanada/>



50年代の油谷地区の棚田

私たちは農林水産省の職員です。法律、農業土木、農学等、専門は様々ですが、これまで「日本の農村を守りたい」という思いを抱きながら各農政分野で働いてきました。そんな中、省内で「政策オープンラボ」という、若手有志が自由にテーマを設定し、業務の一環として新たな政策を立案・実行するための制度ができました。これだ!と思った私たちは、この制度を使ってチームを結成し、昨年12月から省公式の取り組み「棚田女子プロジェクト」を始動しました。

このプロジェクトでは、医療、健康、美容、スポーツ、音楽、ファッションといった、これまで体系的に連携してこなかった分野のヒト・モノ・コトを棚田地域の取り組みと結び付けることで、新たな経済的価値を生みだし、農村を持続可能にする政策につなげていくことを目指しています。

棚田地域が抱える問題は一朝一夕に解決できるものではありませんし、政策につなげる難しさを日々痛感していますが、地域や企業の方々とお話する中で、東京霞が関に籠っているだけでは感じられなかった感情、アイデア、つながりを加速度的に得ることができ、多くのことを学ばせていただいています。

今後も、棚田保全に向けて皆さまと意見交換をさせていただきたいと考えているので、どうぞよろしくお願いいたします。



◆棚田女子facebookで活動を紹介しています⇒<https://www.facebook.com/tanada.girl/>

追悼

周藏さん、ありがとうございました

棚田ネットワークの「石部棚田プロジェクト」で大変お世話になった松崎町石部地区棚田保全推進委員会の高橋周藏前会長が、令和元年5月18日の午後0時50分にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

周藏さん 81歳の誕生日で、ちょうどその日は令和初の田植えの日。しかも、田植えが始まろうとするちょうどその時刻に息をひきとられたそうです。

周藏さんは、2000年に地域のリーダーとして、9割以上が放棄された石部棚田の復田を指揮し、2017年まで石部棚田の保全活動の中心として尽力されました。

私たちは、2012年から石部棚田の8枚の耕作されていたなかった田んぼをお借りして、周藏さんの指導のもと石部に伝わる伝統的農法での稲作体験を行ってまいりました。時に厳しく、そして時にやさしく叱咤激励されながら、棚田でたくさん大切なことを学びました。

最初は、周藏さんが何でこんなに厳しく言うのか分かりませんでした。でも、通い続けて行くうちに、その意味がだんだん分かってくるのです。そして周藏さんの薫陶を受けた人たちの多くが、「結局、俺たち周藏チルドレンなんだよね」といいながら、周藏さんの教えを守っていくと思うようになります。

周藏さんが令和という新しい時代のまさに田植えの日に逝かれたのは、「これからの石部棚田を頼むよ」という想いが込められていると思います。

私たちは、これからも周藏さんの想いを忘れずに、石部棚田の保全に協力して行きたいと思っています。

周藏さん、本当にありがとうございました。そしてこれからも棚田の上から、私たちの活動を見守ってください。

令和元年 五月
石部棚田プロジェクト
久野大輔・高桑智雄



周藏チルドレン

石部棚田プロジェクト

令和元年 五月

久野大輔・高桑智雄

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

阪神のベッドタウンに隣接する 芋谷の棚田 和歌山県橋本市柱本



橋本市は和歌山県の北西端、大阪府の河内長野市と奈良県五條市に接し、阪神圏のベッドタウンであるとともに高野山の入口に当たる都市。柱本は市の北端にあり、周辺を新興住宅地に囲まれているが、農村集落としての雰囲気を保ち、ことに棚田のある芋谷は都会から離れた山間地を思わせる佇まいである。その存在は和歌山県版棚田・段々畑サミットの第3回開催地になったことで広く知られるようになった。

2019年2月中旬に初めて柱本を訪ねた。大阪難波のターミナルから南海電鉄の急行に乗ればおよそ45分で最寄り駅の林間田園都市に到着する。京阪神圏の私鉄は阪急・阪神・近鉄・南海・京阪など競合する私鉄が凌ぎを削っているせいか、首都圏のそれと比べて乗客に

対するサービスが充実しているように思う。想像していたよりはるかに短い行程であった。

団地を抜けて 戦国末期の棚田へ

棚田へは、駅を背後にして直進、右折して団地間を結ぶ周回道路に入る。右手に現れる慶賀野橋を渡り左折、国道371号を北上、柱本の信号で右折し集落に入る。集落内を進み芋谷棚田の案内版を見て右折、集落を抜けると林地に囲まれた芋谷川の両岸に拓かれた芋谷の棚田が姿を見せる。

案内板によると、面積5・4ha、138枚、450年前の開発というから、戦国時代末期に造成されたことになる。紀見温泉ホテル跡より下流の芋谷川の両岸に十数段の棚田

が上流から下流にかけて数組に分かれ扇状地状に張り出し、階段になつている。それは打ち寄せる波のようにも見える。下流側の谷間の切れ目からは紀ノ川左岸側の龍門山などの山並みが遠望できる。

上段から谷底までの比高差は20〜30段前後。従って勾配は緩く12分の1程度。形は等高線型の長方形、広さが3〜4m、各段の高さは1〜2mほど。法面は石積みで玄武岩を思わせる角ばつた黒い火成岩である。集落に迫る高層のマンションやアパート群と谷一つ隔てただけなのに百選の棚田と比べても遜色のない景観である。



なかしま みつひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部歴史科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

保全会を率いる二人と 里山学校の取り組み

現地で会った守り人は柱本田園自然環境保全会の会長と事務局長、それに柱本で活動する新規就農者の3人である。会長は大原一志さん73歳、2人の子供はそれぞれ独立して現在は奥さんと2人だけの世帯。地元の高校を卒業して国家公務員として大阪法務局に勤務することになったが、転勤が多く、家業の農業を手伝うことができないことが判り、許しを得て1年で退職、再度試験を受けて大阪市役所に入庁した。英才であるとともに努力家でもあり、勤めながら関西大学法学部2部を卒業した。この間も父親を手伝い農業に従事したが、40歳の時父親

が亡くなってからは本格的に就農、兼業農家となり、60歳の定年まで勤めた。

現在は水田40[㍓]3枚、畑20[㍓]を所有し、トラクター15馬力、乗用2条田植機、3条刈コンバインを駆使する専業農家。米は農協に出荷せず、家族や知人などに送り、畑では自家消費の野菜を栽培しているそうだ。その経歴から環境保全会の会長のほか選挙による区長に選ばれたり、橋本市の社会福祉協議会の副会長、農業振興地域調整協議会の委員長などの役職を務める集落の重鎮である。

事務局長の佐藤俊さん68歳は炭鉱の町として知られた北海道芦別市出身の独身。高校を卒業後、東大で入試が行われなかった1969

年に京都大学法学部に入学、霞が関における官僚の最高ポストである事務次官を望むことができたほどの秀才。しかし栄達の道を選ばず、食品加工機械の企業に入社、その後環境問題に目覚めて転身、1995年頃に橋本市に來住し生協に出荷する野菜類の無農薬栽培を始めた。

それと前後してNPO法人はしもと里山保全アクションチームに加わり、休耕地の再生活動を始め、柱本地区と関わり合いを持つようになった。そして2012年に柱本田園自然環境保全会の立ち上げに参画、その事務局長に就任、さらに2014年には自らが主宰するはしもと里山学校を芋川の棚田地域に創設、保全会の主たる活動拠点とした。

現在里山学校は3人の地権者から地代なしで休耕地であった水田50[㍓]、13枚を借りて活用、7枚を水田、6枚を畑として利用している。機械類は各種事業の助成金により、トラクター20馬力、乗用の2条と4条田植機2台、コンバイン。ハーベスターなどを購入所有しているそうだ。

学校の主たる活動は児童・生徒の農業体験と自然観察であり、水田での田植え、稲刈り体験などでは柱本地区の全戸が参加する保全会から体験の参加人員に応じて12〜13名、あるいは24〜25名が指導者として活動に加わっている。すなわち、柱本田園自然環境保全会とはしもと里山学校のコラボレーションにより耕作放棄が進む柱本地区の棚田保全を図ろうとする取り組みが行われているのである。

次世代の担い手は 元アマフト選手

新規就農者の浅野匡洋さん31歳は大阪府吹田市の出身、1歳の子供と奥さんのお腹のなかにもう一人赤ちゃんがいるというから高齢化した棚田地域では稀な存在。高校



1：等高線状の棚田／2：立派な石積み／3：棚田案内板／4：保全会の会長大原一志さん（右）と事務局長佐藤俊さん（左）／5：浅野匡洋さん

時代からアメリカンカンフットボールのオフエンスラインの選手として知られ、立命館大学でも一軍選手として活躍、卒業後、パナソニックに入社、就業後の部活として認められていた実業団の強豪インパルスに属する花形選手であった。

しかし、大学では環境システム工学科を専攻した彼は、環境に関わりの深い農業への関心が強く、両親の強力な反対を押し切って5年間勤めたパナソニックを2017年に退社した。その1年前から柱本に姿を見せ、里山学校などの活動に参加していた。そして2018年に橋本市の農業委員会から新規就農者として認定され、5年間最低年150万円の支給を受け就農の道を歩むことになった。

2018年現在、柱本の2か所①20年間の休耕地20[㊦]ア、7枚、②石積みが崩れ湛水できない休耕地10[㊦]ア、4枚、③芋谷外の平場の水田20[㊦]ア、1枚を地代なしで借り受けている。①③は現在耕作しているが、②は今年になって借りたもので、石積みの修復が出来ないので畑としての利用を考えているそうだ。

所有する機械はトラクター13馬

力と耕耘機のみ、その他の機械類は里山学校のを借りているという。訪ねた当日、彼は人影のない芋谷川の谷で唯一人、クワを使い黙々と田面の地ならし作業を行っていた。復田してみても長い休耕により均等に湛水できないことが判ったためである。その作業に取り組む姿勢から彼の米作りに対する本気度をうかがうことができた。

集落住民と新規就農者による化学反応

このように、柱本では集落住民も加わる里山学校の取り組みに加え、新規就農者を受け入れることにより耕作放棄地の解消を図っている。ことに後者の浅野さんのような若



鴨もいます

い就農者は過疎・高齢化が進む棚田地域では金の卵のような存在である。他の棚田地域でも地域おこし協力隊やその任務を終えた後、農村カフェの経営など農業外に収入を求めて暮らす人もいるが、浅野さんのように棚田での米づくりを根幹にして生計をたて、家族と暮らそうとする人はほとんどみることができない。その意味で私は浅野さんに全国の棚田地域における希望の星になってもらいたいものだと思っている。

棚田へのアクセス



【公共交通】南海高野線「林間田園都市」駅から約3.2km、上り坂につき徒歩で約50分。バスの場合は駅西口21番路線の「紀見ヶ丘」行に乗車し終点で下車。柱本集会所を目標に進む。バスの運行頻度はかなり多い。バス利用で棚田まで約15分（南海高野線・紀見ヶ丘駅は運行本数が少ない）

【自動車】京奈和自動車道「橋本IC」より国道371号線を北上し、柱本交差点を右折。ICから集会所まで7km



上：里山学校／左：里山学校の機械類



私の棚田の歩き方

栃木県宇都宮市 南陽祐

私の棚田との出会いは、今から15年程前。家族で参加した大山千枚田の田植えでした。作業の記憶はないのですが、雄大な自然と虫かご一杯の蛙の記憶は今でもはっきり残っています。しかし、そこからは棚田に触れることなく育ちました

現在大学3年の私は、農業土木分野を専攻しています。入学後、祖父の影響で棚田に興味を持ち、昨年の川代田植え稲刈りに参加しました。そこで手に入れた全国棚田ガイドを読んで、棚田の知識も少しずつ増えていきました。

私にとって転機となったのが、2018エコプロです。そこで、本誌110号でも紹介されている本「奇跡の集落」に出会いました。これを読み、実際にこの集落を訪れたいと思い春休みに2週間インターンとして池谷集落で生活させて頂きました。様々な移住者の方々と交流させていただき、「自分も移住して棚田でコメ作りをしてみたい」と思うようになりました。大学卒業後は、農業土木系の仕事をしたいのですが、いずれは移住したいと考えています。その時から、私の棚田巡りは理想の生活像探しになりました。

インターン後数か月で東日本の棚田を10程



上:川代棚田での田植え 下:池谷の仲間と

巡りました。私のSNSの大部分を占める#棚田に、そんな所に何しに行くのだと不躰な質問もちらほら。写真を撮っておにぎりを食べるだけですが、その中で景色や空気を感じ、そこで生活する自分を想像します。勿論移住は簡単ではありませんが、こんな見方で棚田を歩いてみるのもわくわくして楽しいです。

子供の頃大きく見えた物も、成長して見ると小さく見えます。ですが、先日の川代田植えの後、約15年ぶりに大山千枚田を訪れると、当時と変わらず整然と並び壮大な棚田は、改めて私を感動させてくれました。これからも全国色んな棚田を歩きたいと思います。

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんのベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇨ hiroba@tanada.or.jp



丸山千枚田

千葉県船橋市 野口 正之

13年前に初めて棚田の風景に出会った思い出の場所です。以来、棚田の美しい景観と心の安らぎを求めて日本各地を巡っています。

春の三二講演会

神奈川県横浜市
木戸 幸子

恒例となった、春の三二講演会。今年は三組の講師の棚田に寄せる熱い思いを聞くことができました。

①「ブレナス米文化継承事業」 八谷中大さん

「ほつともつと」や「やよい軒」を展開しているブレナスさんは、年間4万トンのお米を調達しお弁当や定食に。その中に米文化や歴史を織り込み発信することを日頃から考えている。文化事業の一環として本社ビルに元首相細川護熙氏の壁画「棚田の四季」を掲示。その制作過程をビデオで紹介。昨今、値ごろ感のある米の調達が大変なことでした。

②「棚田カードの取り組み」

農水省棚田カードプロジェクト 上原加奈子さん、久保京子さん

国と県の枠を超えた棚田カードの発行が始まる。「棚田に來い(恋)」をキャッチコピーに、棚田地域をまわり、各地の棚田カードを集めてもらう作戦。道の駅や各地の保存会で配布。第一弾の発表は今夏という、大変ホットでわくわく感のあるお話でした。

③「わが郷里・宮崎県北部の棚田」 中島峰広さん

「住んでいるのは猿と人間が半々である」と言った夏目漱石の言葉を引用しながらのお話。溶岩台地にある日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町では用水を確保するための山腹水路開削やトンネル工事を重ねてようやくやく棚田が拓かれた。日之影町戸川の石垣の棚田は優れた石工によって造成され、今も現役。標高の高い傾斜地での米作り、米に対する農民の執着が厳しい条件を克服した歴史が語られました。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



1,600円(+税)
出版社: mont-bell BOOKS
2017年8月

しま山100選 登山で見つける、新しい島の魅力

「TANADASI」の参考ともなった「SHIMADASI」発行元でもある(公財)日本離島センターとモンベルの共著。海に囲まれた島の山々の個性や魅力にスポットをあて、全国の島々を対象に「登山で見つける新しい島の魅力」として、100の「しま山」を選定し掲載しています。中には長崎県平戸島にある【春日の棚田】を望む絶景スポットである「安満岳」なども紹介されています。登山にも必携!



オオカミは大神 狼像をめぐる旅

著者: 青柳健二
1,620円(税込)
出版社: 天夢人
2019年4月

昔、狼は田畑を荒らす猪や鹿などを追い払ってくれる益獣だったことから(東北の馬産地は除く)、農事の神として崇められた。狼は明治時代に絶滅したといわれるが、全国には今でも狼信仰の神社は多く、狛犬ではなく狼像が社を守っていたり、狼の姿が入ったお札が頒布されているところもある。この本は、稲作農業にも関わりがあった狼信仰や狼像に魅せられて、関東・東北・中国地方を旅した写真家の探像譚である。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

若手社員の農業研修を実施

2019年5月13日 報告 内田 千鶴

株式会社ゼンリンデータコム様の入社2・3年社員を対象に鴨川市川代の棚田での農業研修を企画し、田植えを行いました。

当日は曇りで暑すぎず、絶好の田植え日和。着替えて軽トラの荷台に分乗、凸凹の農道をアトラクションのように楽しみながら棚田まで向かい、一列に並んで田植えスタート。田んぼならではの生き物とも触れ合いながら、誰も転んで泥だらけになることもなく、あっという間に作業を終了。

お昼は棚田を見下ろす小高い場所でお弁当タイム。田植えの感想を語り合いながら、皆さん清々しい表情で、達成感に満ち溢れ、「稲刈りも楽しみ!」という声も多く聞かれました。



大阪府・千早赤阪村で田植え体験実施

2019年6月9日 報告 上久保 郁夫

大阪中心部から1時間ほどで風光明媚な棚田に着くとあって、象印ライスマイルが募ったイベントは大好評でした。総勢57人と賑やかな田植えとなりました。

1組5人のチームに分け、交代で2枚の田んぼに入りました。14人の子供たちばかりか、初めて挑戦するという大人も大勢いて、恐る恐る田んぼに入るも直ぐに慣れ次つぎと植えていきました。昼食はカレーライスと肉じゃがごはんの二者択一。子供たちはカレーライスの前に長い行列を作っていました。

午後の交流会でも元気よく発表する小学生たちが主役。とても充実したイベントになりました。



スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
Kamy

修学旅行のとき、「米一俵もしたんだよ」と言っておふくろが奮発して革靴を買ってくれました。米余りで減反が始まった頃の話です。当時、収穫米は脱穀したのち米俵に詰め、精米所に運んでいたの米一俵分の値段といつても粗米のことだと思えます。

米一俵を担げますか？

昔の農村では米俵を担ぐ姿は当たり前だったようですが、一俵という計量単位の使用禁止で俵は姿を消し、30kgの紙袋に代わりました。いま、各地で「俵担ぎ体験会」などが催されても、担げる人はごくわずかだそうです。昔の人に比べ体力が劣ってきたわけではありませんが、軽トラやフォークリフトの出現で力仕事は減り作業環境が変わってきたためでしょう。棚田ネットワークでは体験田からの収穫米を30kg入り6袋前後で受け取っています。この30kg袋でさえ積み下ろしは楽ではありません。

物流の基準として60kgもの重量物が長い間使われてきたのはなぜでしょう。昔の運搬手段といえば馬や荷車が主流、馬の背中に二俵積むと収まりが良かったからという説もあります。また、昔の成年男女は一俵担げて一人前とされるほど力仕事が多く、特段体を鍛えるまでもなく普段の生活のなかで担げたようです。この写真では女性でも軽々と担いでいるように見えるので、ドラマ「おしん」に登場する女丁たちではないかと推測されます。



写真：秋田県仙北地域振興局資料より



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

新緑を迎えた棚田での田植え体験



川代棚田でのお米づくり体験プログラムも5年目を迎え、今年は元号が令和に替わり初めての田植え体験を5月3日(金)に行いました。今年も現地集合方式とし、子供さん6人を含む29人の皆さんに参加いただきました。

当日は天気恵まれ、中島代表と地元集落の庄司代表より歓迎のあいさつがあり、篤農家廣部さんより苗の植え方の説明を受け早速圃場へ移動です。初めての人も多く、地元スタッフの指導を受けながら、一本の縄を目印に横一列に並び植えていきます。最初は泥んこに足を取られ苦労しながらも、だんだんスムーズになり笑顔に変わっていき、子供さんもオタマジャクシやカエル、ザリガニを追いかける余裕が出てきて昼前には無事田植え完了となりました。昼は、林の中で一緒に地元婦人部のお手製のお弁当をおいしく食べたのち、自己紹介と感想で交流。「楽しかった。ぜひ稲刈りも来たい」との声が多く聞かれスタッフ一同ほっとしました。

稲刈りは9月1日(日)の予定です。草刈り、脱穀や収穫祭についても希望者があれば参加していきますので、皆様の積極的な参加をお待ちしています。(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

かえるの卵を探そう!



昨年に続き雨の中、「雀始めて巣くう」3月21日(水祝)、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第12回かえるの卵を探そう!」を開催しました。20名(大人7名、子供13名)の参加。雨なのでお話だけにしようと思いましたが、子供達にとって濡れて雨の中を歩くのが楽しいということで、拠点施設である「なごみの家」より標高が低い地域のみ(調査区域の半分程度)調査をしました。午後の調査を合わせた結果、その日に19卵塊を見つけることができました。なお、その後の合計3回の調査の結果、今年の卵塊数は例年より少ない35個となりました。

晴天の中、「蚕起きて桑を食む」5月24日(金)、棚田ビオトープの田植えを国際園芸アカデミーの学生を中心におこないました。田んぼの真ん中に直径2mぐらいの石がある変わった棚田で、毎年その石を中心にドーナツ状に稲を植えています。今年のヤマアカガエルはカエルといってもよいほど成長しているものもいました。また、シュレーゲルアオガエルの卵塊やニホンイモリも見つけることができました。恒例のこどもビオトープ観察会は8月3日(土)10時から開催する予定です。(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

田んぼづくり～田植えまで



今年も3月23・24日に畔切り&簀口作りイベントを開催、8年目となる「昔ながらのお米づくり体験」をスタートしました。昨年のお猿さんによる簀口の破壊に対抗すべく、今年は獣害防止用の網で囲ったのが功を奏したのか、無傷のまま4月29・30日の畔付け・畔塗りイベントを経て、5月18・19日には無事田植えを迎えました。天気もまずまずの田植え日和。参加者は15名ほど、例年よりは少し少なかったのですが、その分、一人当たりの植える本数が多かったため、今年は「たくさん植えられて満足!」と喜んでくれた参加者の方もいました。田んぼには、おたまじゃくしや沢ガニやカエルがたくさん現れ、子どもたちも大喜びで、熱心に追っかけて、どんな状況でどんな風に捕まえたのか事細かに説明してくれました。次回7月6・7日は草刈り・草取りイベントを開催します。二日目は恒例の大地曳網祭に参加します!(高桑 智雄)

第25回 全国棚田サミット in 山口県長門市

棚田の魅力を再発見！
美しいふるさとを未来へ

2019
10/13日～14日 祝

会場 ルネッサながと

棚田見学会 「東後畑の棚田」周辺地域

山口県
長門市

東後畑の棚田



主催：全国棚田(千枚田)連絡協議会

主管：第25回 全国棚田(千枚田)サミット長門市実行委員会

長門市実行委員会事務局 〒759-4192 山口県長門市東深川1339-2 長門市農林課内
TEL 0837-27-0400 FAX 0837-22-8458



わたしたちと「棚田の応援団」やしませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

また、棚田が単なる農地としてではなく、「多面的機能」や「都市や外国との交流の場」として棚田地域全般の諸問題に言及している点も評価に値するだろう。待ったなしの棚田の現状において、この法が遅きに失するものにならないよう、私たちも帯を締め直さなくてはならない。

編集部から
審議中だった「棚田地域振興法」が6月12日、衆院に続き参院本会議で全会一致で可決され成立した。あくまでも基本理念であり、この法によつて動かされる具体的な政策はこれからであろうが、ともあれ国の法に棚田が「貴重な国民的財産」と定義されたことは、私たち棚田業界においてはエポックメイキングな出来事であることは間違いない。

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>

棚田に吹く風

2019年 夏号 Vol.112

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565